

浜田市議会議長様

陳情番号	130
付託先委員会	総務文教委員会
審査結果等	

サン・ビレッジ浜田アイススケート場の活用のあり方に関するアンケート調査について、わかりやすい説明を求める陳情

サン・ビレッジ浜田アイススケート場のあり方に関する調査検討業務の中で、中高生 2200 人や市民 2000 人を対象としてアンケート調査が行われました。調査検討業務報告書では、このアンケートの結果について、数字やグラフを用いて説明していますが、実際に使用したアンケート用紙について確認したところ、市民アンケートと中高生は、ほぼ同じ内容の設問でした。しかしよく読んでみると、なぜこのような設問をしたのかや、なぜこのような方法で回答を求めているのかが不明な部分があります。それぞれについて設問の意図（その設問に対する回答で、何を判断できると考えたのか？）がよく分かりません。

以下のような内容について、市民は説明を受けておらず、執行部からわかりやすい説明をしていただけるように働きかけて下さいますよう、お願い申し上げます。

- ① 問3として、これまでの利用頻度を質問していますが、これに対する回答がどうであれば「十分利用されている」とか「他の施設と比較して少ない」といった判断ができるのか、できないのか、意図がよく分かりません。
- ② 問5の回答結果について報告書に記載がありません。この設問は、「施設の利用者をもっと増やすために何が必要か」を質問している非常に大事な設問だと感じますが、報告書の市民アンケート結果にも、中高生アンケート結果にも記載がありません。どのような結果だったのかを知ることで、これまでに足りない施策、行うべき施策が見えてくると思います。結論として「用途変更が望ましい」としたから載せなくてもよいということなのか、記載がない理由がわかりません。
- ③ 問8と問9の回答を求める対象に、問6で「スケート場以外の施設としてリニューアル」を選んだ人だけでなく、「分からない」と答えた人を含めた理由がわかりません。今月6日の全員協議会で、岡田教育長は「45%とそれ以上の方が別の用途でという思いを持っておられる。」と岡本議員さんの質問に答弁していますが、もしこの教育長のおっしゃる「それ以上の方」が「問6に対し（わからない）と答えた方」を指しているのであれば、その方たちはスケート場を別の用途でという思いをもっているから選択肢から選んだのではなく、アンケート用紙で回答、選択を求められたから回答選択したにすぎません。「今の建物を残したままアイススケート場以外の施設にするとしたら、市民はどう考えるのか？」という条件で回答を求めるならば、問6で「スケート場として残す」を選んだ人を含め、アンケート回答者すべてに意見を聴かなければ、「スケート場として存続」を選んだ方は取り残されているのではないのでしょうか。

- ④ 問8と問9の回答を求める対象に問6で「分からない」と答えた人を含めたとしても、報告書の38ページで回答者すべての数を合算してグラフ表示しているのはなぜかわかりません。「スケート場以外の施設としてリニューアル」を選んだ人は、この選択肢の中に希望する施設があったと考えられますが、「わからない」と回答した人は、仮に判断材料が足りないから分からないと回答していた場合、「スケート場として残した方が良い」と考える可能性もあり「スケート場を含まない選択肢から選ばせた」ことから「スケート場以外へのリニューアルを望んでいる」と捉えるのは、設問手法によって結果の操作をしていることになり、アンケート調査のやり方として公平性に欠けます。なぜこのようなやりかたになっているのかわかりません。
- ⑤ 問9でなぜ複数回答を可にしているのかわかりません。床面コンクリート、床面人工芝、床面板はそれぞれ異なるので、施設改修を行う場合にこれらの両立（施設の半分ずつ別の仕上げにする等）が無いのならば、複数回答可とすると、調査対象者が一番望む施設整備の種類を知るための調査になっていません。問6で「スケート場以外の施設へリニューアル」を選んだ人に対し、問9に単一回答を求めることで、回答者がどの用途に変更するべきと考えるかを知ることができます。複数回答可とすることで、1つ選ぶ人もいれば5つ選ぶ人もいます。複数回答可にした目的がわかりません。
- ⑥ 中高生へのアンケート結果で55.9%が「スケート場として残す」、26.3%が「スケート場以外にリニューアル」、17.3%が「わからない」だったと示されています。中高生の圧倒的多数が「スケート場として残す」を望んだ結果について、2月6日の全員協議会では久保田市長が「市内の子供達に、あった方がいいですか？どうですか？という恐らくこの質問形式でやったら55%だった。だけど、こっちとこっち、どっちがいいですか？と訊いた訳じゃなくてあったらいいですかって訊いたんで、あったらいいですよって言う恐らく回答なんです。先ほどデータにもありましたけども、行ったことがあるというのは、使ったことがあるというのは、ほんっと極めて少ない。（発言通り）」とおっしゃっています。「多くの中高生がこれまでに数回利用している」ということ自体、「特殊」な公共施設です。今回のスケート場に関する調査での「多くの市民や中高生に対して調査をした結果、これまでに数回利用している」という結果を「極めて少ない」とおっしゃり、仮にそれが「だから必要性は低い」とお考えになるのであれば、市内の他のスポーツ施設や、再配置実施計画に載ってくる公共施設についても同じ視点で調査や判断なさらなければ、ダブルスタンダード、トリプルスタンダードだという話になりかねず、非常に心配です。担当課が示して下さったアンケート用紙と実際に使われたアンケート用紙が異なっていて、「あった方がいいですか？どうですか？」という設問だったのでしょいか。

⑦ 市民アンケートの問6への回答では、「スケート場として残す」を選んだのが227人でした。問6で「スケート場以外へリニューアル」を選んだ334人の問9への回答は以下のとおりです。実際の回答数から考えると、回答者が希望する改修内容は、2月6日の全員協議会で、三浦議員さんの質問への答弁で教育部長がおっしゃった内容「市民アンケートで、一定の要望はあるけれど、需要としてはそれほど高くない。若者についても同じような結果がある。」と矛盾しており、(市民アンケートで313件で第1位、中高生アンケートでも62件で第1位)になっており、なぜ事実に基づかない答弁をなさったのかがわかりません。

改修内容	用途		問6で 「スケート場として残す」
スケート場	スケート、カーリング、ホッケー、レジャー利用	①	227

問9への回答（複数回答可）

			334人が 1人平均2.6個選択		
改修内容	用途		問6で「スケート場以外」の334人の回答	改修内容別合計	2.6で割ると
コンクリート	アーパンスポーツ	②	123	313	120
	ニュースポーツ	③	66		
	アウトドアのアクティビティ	④	124		
人工芝	子供向けアクティビティ	⑤	127	303	116
	各種スポーツ	⑥	176		
板張り	屋内スポーツ	⑦	176	235	90
	パラスポーツ、ユニバーサルスポーツ	⑧	59		
その他		⑨	20	20	8
無回答		⑩	0	0	0
		合計	871	871	334

⑧ 市民アンケートの問6で「スケート場以外にリニューアル」を選択した334人について、問9での回答数を改修内容別に比較すると、コンクリート313件、人工芝303件、板張り235件、その他20件となっています。合計すると871件で、回答者数334人に対して多いですが、これは複数回答可としているためと思われます。1回答者あたりの回答の重みを揃えようとした場合、回答総数を回答者数で割った数値2.6でそれぞれの件数を割ることになります。単純にそういう作業を行った場合、改修用途別の希望者数はコンクリート120人、人工芝112人、板張り90人、その他8人となり、スケート場として残すを希望した人数227件に全く及びません。こうした分析は教育委員会は得意なイメージがありますが、公平な比較のためにこうした実回答数を使った分析を行われたのでしょうか？

問9への回答（複数回答可）			171人が 1人平均2個選択		
改修内容	用途		問6で「分からない」の171人の回答	改修内容別合計	2で割ると
コンクリート	アーバンスポーツ	②	54	115	58
	ニュースポーツ	③	19		
	アウトドアのアクティビティ	④	42		
人工芝	子供向けアクティビティ	⑤	50	130	65
	各種スポーツ	⑥	80		
板張り	屋内スポーツ	⑦	64	90	45
	パラスポーツ、ユニバーサルスポーツ	⑧	26		
その他		⑨	7	7	3
無回答		⑩	0	0	0
		合計	342	342	171

⑨ 市民アンケートの問6で「分からない」を選択した171人について、問9での回答数を改修内容別に比較すると、コンクリート115件、人工芝130件、板張り90件、その他7件となっています。合計すると342件で、回答者数171人に対して多いですが、これは複数回答可としているためと思われます。1回答者あたりの回答の重みを揃えようとした場合、回答総数を回答者数で割った数値2でそれぞれの件数を割ることになります。単純にそういう作業を行った場合、改修用途別の希望者数はコンクリート58人、人工芝65人、板張り45人、その他3人となります。公平な比較のためにこうした実回答数を使った分析を行われたのでしょうか？

⑩ 令和6年1月24日の総務文教委員会でも、同日のスポーツ推進審議会でも、2月6日の全員協議会でも、中高生の55%が「残して欲しい」と回答していることから、3つの会議全てで「若者の想いを受け止めるべきではないか」という趣旨の意見が出ましたが、これに対して市は、利用頻度の調査結果で「これまでに数回程度が多い」、「利用につながっていない」「多くの市民の受益実感につながらない」という考え方を示しています。3つの用途について比較し、その結果を判断材料とするのであれば、人工芝、板張りについても、それぞれの用途への改修を望む人たちに対しても「そういう改修を行った場合、この施設をどの程度の頻度で利用するか？」という調査を行い、その結果が「中高生のスケート場の利用頻度に比べて明らかに高いからこちらを選びます」と示さなければ、中高生の理解を得られないし、片手落ちではないかという疑問があります。なにより、アンケート調査票に「わたしたちのまち、浜田市では、サン・ビレッジ浜田アイススケート場の今後のあり方を検討しています。そこで浜田市内の学校に通う中・高生の皆さんのご意見を市の政策に反映するため、アンケート調査を実施いたしますのでご協力をお願いします。」と書いたことに対する責任感が感じられず、「誠意のないやり方だな」、「市の偉い人たちのやりたい方向性と違えば、聞いてくれないんだな」という印象を多くの中高生に与えています。子育て世代の親からも「残して欲しいという子供達が多いのに、聞いただけなのか？」という声もあります。市は「その他の用途に変更した場合の利用頻度が、あなた方のスケート場の利用頻度よりも高くなるから」という客観的に信頼に足る調査結果を示さずに判断できると考えたことについて、説明責任があるのではないのでしょうか。市がどう考えているのかがわかりません。

以上お忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

2024年2月9日

浜田市国分町
三島 淳寛

